

(款)5総務費 (項)5下水道総務費 (目)10排水施設管理費

◎作業センターの経費

作業センター事業

【 作業センター 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち

下水道・河川:公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 市民の安全性、利便性、快適性への迅速な対応を確保するため。

効果 河川・下水道施設等の修繕を迅速に行い、機能維持を確保する。

【事業の内容】

(1) 作業センター事業

・河川・下水道施設等の修繕を行った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
14,434	14,434	13,320		1,114

主な支出内訳

・作業センター事業

燃料費	570
車両修繕料	797
直営作業発生産業廃棄物収集運搬業務委託料	0
直営作業発生産業廃棄物処理業務委託料	0
補修用原材料費	9,076
補修用備品購入費	2,564

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 都整-35 作業センター事業						
事務事業 単 位	<input type="checkbox"/> 支 援 部 門 ザイムス コード及び 個別事業 名	1317 作業センター事業					
主管課	作業センター	関連課	各部各課				
分野名	下水道・河川						
目標 (目標値)	下水道・河川の維持補修作業を行い、安全で快適な生活を送れるまちづくりをする。 要望処理率95.00%						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考 ・各年4月1日		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人			
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	13,320千円	13,046千円	12,454千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	13,320千円	13,046千円	12,454千円			
	人員配置数	7.0人	7.0人	9.0人			
	人件費	61,400千円	62,653千円	80,041千円			
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費	74,720千円	75,699千円	92,495千円			
	市民1人当 りの経費	423円	430円	528円			
対象者1人 当りの経費							
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
作業センター事業	4,760	緊急経済対策事業増額			④		
					※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)		
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
要望処理率	○	目標値	92.50%	95.00%	95.00%	95.00%	97.50%
		実績値	91.10%	88.30%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 1 作業センター職員の執務場所が平成22年度末までの暫定であるため、恒久的な執務場所の確定が急務である。 2 道路・下水・公園・美化の現業4部門を統合し作業班を再編成して、技術の習得や承継を図ることが急務である。 3 下水道の経年劣化による補修要望の増加がみられ、現場調査や対応に相当の時間を要した。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 1 執務場所については、関係各課とともに候補地を選定し検討を行った。 2 作業員の一部入れ替えや、必要に応じた人員のやり繰りを行い、技術の習得や継承に努めた。 3 パトロール班及び各班長に、携帯電話を各々に配布して、様々な要望に対して迅速な対応を実現させた。 その他、関係各課とは、日々の業務を通じて、迅速で効率的な連絡調整を行い、問題点については、その都度改善を図り、以後に同様の問題が生じないように配慮した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 1 作業センター職員の執務場所を確定する。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 1 作業センター職員の執務場所候補地のメリット・デメリットを検討し、執務場所を確定する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	1 作業センター職員の執務場所の確定に向けて、早急に結論を出す。 2 維持修繕費用や人員の移管を段階的に進めていくほか、技能労務職の退職不補充や配置転換による技術力の低下を防ぐため、常に技能の継承を図る。 3 下水道の管理者の一員として、関係各課と迅速で効率的な連絡調整を充実する。		
担当課長氏名:	作業センター所長 入江 良雄		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	市民サービスの維持向上のため、各種の要望等に対して、迅速かつ効率的に処理できる体制作りに努めるとともに、常に市民サービスの内容を見直す。		
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋